

# サクラランボ 枝につらら

山辺町元宮のサクラランボ農園「多田農園」で10日、佐藤錦や紅秀峰などの枝一面につららが連なっていた。サクラランボの花芽を霜の被害から守るため、一晩にわたって、樹上のスプリンクラーで水をかけたことのできた。

サクラランボの花芽は発芽してから開花するまでの間、霜が降りるとめしべが枯死し、実がつかなくなる。

対策の一つが、スプリンクラーで夜中から樹木に水をかける「散水氷結

## 霜被害防止に「散水氷結法」

法」。枝についた水が氷結時に熱を放出する「凝固熱」現象を利用し、芽の外側に「氷の膜」を張って内部の凍結を防ぐ。

この日は午前1時ごろから同8時ごろまで散水を続けた。県内の果樹農家では灯油を燃やして樹木を温める方法が一般的だが、多田農園の多田耕太郎社長(62)は「大量の灯油を燃やすより、散水の方がコスト面でも安上がりだ」とメリットを語る。

県農業技術環境課によ

ると、灯油による霜対策は一定以上に気温が下がった場合、有効に働かない。一方で、散水氷結法

には大量の水が必要になる。一長一短があるなかで、「開花時期を迎えるまでの今月いっぱい、霜注意報などに注意してほしい」と呼びかけている。

【野間口陽



つららが芽をしっかりと守っている＝山辺町元宮の多田農園で